

# 探究

令和2年5月15日（金）配布 探究活動推進部

## 1年生

## SDGs 講話を実施しました!

5月11日（月）、大講堂で「SDGs 講話」を実施しました。冒頭、「今までSDGsという言葉聞いたことがある人は？」という問いかけに対して、数名が手を挙げる程度でしたが、「説明を聞き、SDGsとは何か、自分の言葉で説明する」という目標に向かって、熱心に取り組みました。

### 【本時のまとめ】

#### Q.SDGsとは?

#### ★解答例

国連が定めた「持続可能な開発目標」のことで、17のゴールがあり、2030年が期限である。



### 【紹介された事例】

事例①秋田県では、仙北市がSDGs未来都市に指定され、田沢湖の水質改善等に取り組んでいる。  
事例②秋田北鷹高校では、昨年の北鷹祭「仮装行列」テーマがSDGsであり、各クラスが取り組んだ。  
事例③北鷹高校3年BCD組は、「SDGsと自分の将来」という視点で「課題研究」に取り組んでいる。

授業後半では、4月13日のオリエンテーションで挙げた「地域の魅力」を手がかりに、次の問に取り組みました。

### Q. 地域の魅力を向上させると、SDGsのどのゴールの達成につながるか?

「自然」という魅力を挙げた生徒はNo.11「住み続けられるまちづくりを」とNo.15「陸の豊かさを守ろう」の2つのゴールを挙げていました。与えられた時間が短かったことと、挙げた魅力の内容がまだ漠然としているせいで、なかなかつながりが見えない生徒もいましたが、今後の学習で「地域の魅力とSDGsのつながり」を深く学んでほしいと思います。

### 【予告】

今後、「家庭基礎」（教科担当：小栗先生）の授業を通じて、SDGsについて学ぶ機会を設けます。この日学んだ概要をもとに、具体的な事例の考察を通して、SDGsの理解を深めてください。



### 【ポートフォリオから】

- ・地域でSDGsのためにどのような取組をしているか、知ることが大切だと思った。(A組男子)
- ・SDGsは自分も関係している目標だと分かったので、自分にもできることをしていきたいと思いました。(A組男子)

# 2年生 (A文系+BCD) 市役所職員講話スタート!

5月13日(水)6校時「課題研究」の授業において、北秋田市役所職員による講話がスタートしました。地域の実情を、担当者から直接聞ける貴重な機会です。この日は、医療健康課から2人の保健師の方が講師として来校。現在、北秋田市で取り組んでいる業務の中から「自殺対策」の経緯・現状・対策をお話ししてくださいました。対策の一環として北秋田市が作成したシャープペンシル(※写真下)が、生徒全員に配られました。※このシャープペンシルには、悩み相談の窓口の情報につながるQRコード(写真の矢印)が付けられています。

## 【ポートフォリオから】

- ・「生きる阻害要因を減らす」ことではなく、「生きることの促進要因を増やす」ことが大切、ということをはじめて知った(A組女子)
- ・秋田県は自殺率1位ということは知っていましたが、自殺を減らすための対策を積極的に行っていることは初耳でした。(C組女子)
- ・自殺はその人自身の問題ではなく、周りの環境がその人を追い込んでいるとわかった。そういう状況をなくすためにも、まず自分のまわりを良い環境にしたい。(D組男子)
- ・(「一人暮らしの高齢者」より) どうして「家族のいる高齢者」の自殺率が高いのか、テーマにしてみたいと思った。(C組女子)
- ・自殺は若者に多いと、SNSやニュースだけで考えていましたが、今回の講話を聞き、実際、自分で調べると良いことや、相談を受けた時、1人で考えるのではなく、他の人へも聞くことが大切だと思いました(B組女子)
- ・自殺率を減らすためにも「住みやすい社会」にしていかなければならない(B組女子)



## 【今後の予定】

5月20日(水)第2回「ごみ対策」(生活課職員)

5月27日(水)第3回「移住・定住対策」(総合政策課職員)

6月10日(水)第4回「防災・減災対策」(総務課職員)

- ・講話終了後、4つのテーマから1つ選択し、グループで課題研究を開始します。
- ・講話で来校した市役所職員は、皆さんの今後の研究の「助言者」を務めてくれます。

## 【3年生「自殺対策」研究班から】

「自殺対策」を研究テーマに選択した3年自殺対策5班の班長から、2年生へのメッセージです。

Q. 選択したきっかけは? A. 秋田県が自殺率1位と聞き、減らすためには何が必要かを考え、地域に貢献したいと考えたからです。

Q. 昨年度の研究内容は? A. うつ状態に陥ってしまう要因に関わっている機関に、アンケートとインタビューを行いました。

★2年生に一言! 班全員で協力することですること、より充実した課題研究になると思います。「何もしない人をつくらない」、これが結果に大きく関わると思います!